

第3回地域問題研究会の報告

2月29日（土曜）午後2時から4時頃まで、鹿児島大学法文学部4階の会議室で、第3回地域問題研究会が開催されました。

今回は「共生・協働による持続可能な地域社会づくり」をテーマにした関係で、鹿児島県の「かごしま県政出前セミナー」として、村田麻紀子さん（くらし共生協働課長補佐兼協働企画係長）に来ていただいて、講演してもらうことにしました。

講演は、まず講師から設問が出され、「地域の課題」「調整・サポート」「アイデア・専門性」「プラン・計画」をグループで議論するワークショップから始まり、その後、2045年には120万人まで人口が減少し、3割の自治体で高齢化が50%を超える鹿児島県の現状が報告されました（ちなみに、鹿児島県の人口が最も多かったのは1955年で200万人を超えていました。2015年には165万人）。地域では格差・貧困の拡大、農業の衰退、自然災害、老老介護など課題が多様化し、深刻化して、暮らしをめぐる難しい課題が増加している。

地域のそうした現状では、これまで公共サービスをほとんど行政が提供して

きたが、それも限界に近づき、地域に必要なサービスを提供する「新しい仕組み」の形成が必要になっている。それが「地域コミュニティの再生・創出」であり、行政・県民（民間）の間に、地域の多様な主体が連携・協力し、地域に必要なサービスを提供する「新しい仕組み」が必要となる。それが「共生・協働」という地域のつながりとなる。

そして、鹿児島県の「共生・協働」の地域社会づくりのための県の「基本方向」が紹介されました。①ソーシャルビジネスなど持続可能な取組を生み出す仕組みづくり、②地域の力を結集するコミュニティ・プラットフォームづくり、③行政の協働化による地域の主体的な取組の促進、④「共に取り組む」機運の醸成、とのことです（かごしま未来創造ビジョン）。その後、この4項目について県内各地の取り組みが紹介されました。

その後、質疑がなされました。参加者（大学院生）から「地域社会づくりが高齢者中心で疲弊しているのではないか」という指摘をふくめて発言がありました。参加者は、会員が9名、市民・学生などの参加者が2名でした。「出前セミナー」ということで、無償で講師を引き受けていただいた村田さんにお礼申し上げます。